
メシアナンバー1024

幼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メシアナンバー1024

【Nコード】

N4584H

【作者名】

幼

【あらすじ】

目指すはあくまで小市民！な私が選ばれたのは、1024番目のメシア　！？ちょっと可笑しな人物達が織り成すドタバタ異世界トリップFT。

0・鉄砂の海にて

むかしむかし、世界はたくさんの道に分かれ、破裂しそうになっていました。

一つの世界が二つになり、二つの世界が四つになり、重なり合った世界のシャボン玉は許容量を超えようとしていました。

困り果てた神様は選択者を選び出し、世界の運命を決めてもらうことにしました。

世界を選択し、世界を救う存在。救世主^{メシア}として

「こうして救世主^{メシア}は生まれましたとき。めでたしめでたし」
平坦な声は、そうやって話を締めくくった。

小鳥が囀っているかのような可愛らしいソプラノ。しかし、その声には全く感情は込められておらず、無愛想な少女が手にした書類を淡々と読み上げている姿を連想させる。

だがその声の主は、狭く薄暗い廊下には見当たらない。

その廊下に存在するのは、一人。黒髪の少女　イチだけだった。

「イチ、聞いていますか？」

問いかけには答えず、ただその声の存在を否定するかのよう
に、イチはぶんぶんと首を振った。

その度にイチの黒髪に滴るアルコール臭を放つ赤色の液体が辺りに飛び散る。彼女のセーラー服にはまだら模様ができてしまっていた。

石造りの壁に背中を預けて覗き見ると、暗く伸びる廊下の突き当たりには錆びた扉。

扉に至る道に誰もいないことを確認すると、イチは扉に駆け寄りドアノブを掴んで、一息に開け放った。

ごう、と風が吹き込み、反射的に瞼が閉じる。

次に目を開いたとき眼前に現れた光景に、イチは一切の行動を停止し、間抜けな声を上げざるをえなかった。

「……は、あ？」

音が無い。人が無い。

喧騒も街並もネオン煌めくビル群も何も無い。それどころか植物の緑や水の青も一切見当たらない。

イチの眼前には、藍色の空にぽっかりと浮かぶ巨大な月と、その月光を浴びて銀色に煌めくただただ広大な砂の海だけが広がっていた。

「というわけで、イチ」

口をぽかんと開けたまま固まるイチに、沈黙を続けていた姿無き少女は静かに宣告した。

「あなたには今から世界を救っていただきます」

イチは絶望するように乾ききった地面に膝をついた。風が吹き付け、膝頭が砂に埋まっていく。

「そんな……」

か細い声が漏れる。ありえない事態への恐怖や絶望からのものなのか、その声は情けなく震えている。

「そんなのって……」

うなだれ、肩を落とした。

砂を握り締めた。拳がふるふると震えている。

不意にイチはがばつと顔を上げ、天高くに鎮座する巨大な満月を睨みつけた。

「……信じられるかああああああああああああああああああああああああ……」

行き場のない苛立ちのこもった少女の咆哮は、人の気配の全くない夜の砂漠に、虚しく響き渡った。

どうしてこんなことになってしまったのだろうかといった疑問や
後悔やらを含ませながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4584h/>

メシアナンバー1024

2010年10月9日20時53分発行